

予算特別委員会の審議から

神戸市の2022年度の予算について審議する予算議会が2月28日から3月16日まで開催されました。高橋は、文化スポーツ局、経済観光局、建築住宅局、こども家庭局について質疑しました。



文化スポーツ局 垂水の遺跡をみんなが親しみやすく

垂水区の遺跡に市民が親しめるように、様々な提案をしたところ、下の表のとおり、大半の提案が採用されました。

また、市の計画である五色塚古墳のガイダンス施設(小学生のクラス見学が可能)の建設に賛同しつつ、候補地に地元自治会の市民農園があることから代替地を要望しました。

高橋からの提案	神戸市の返答
①五色塚古墳が誰の墓なのかを判明するために発掘調査を	掘り返しができないので地中レーダー探査での調査を検討する 前進
②若者に人気のパワースポットであることを活かした広報を	「ワンダリズム きみを呼ぶ声」というアニメ動画を活用して広報する 前進
③新垂水図書館内に垂水区遺跡展示コーナーを設置してはどうか?	多目的展示スペースで企画展示を検討する 採用!
④レバンテ1番館の地下にある日向遺跡展示コーナーの広報充実を	区役所の協力で区民にアピールするようにしたい 採用!
⑤神戸市埋蔵文化センターのウェブページで出土品と発掘場所を分かりやすく表示できないか?	ウェブページを見ただけで出土品と発掘場所を分かりやすく表示できないか? 採用!



経済観光局 有機農業推進の決意を問う

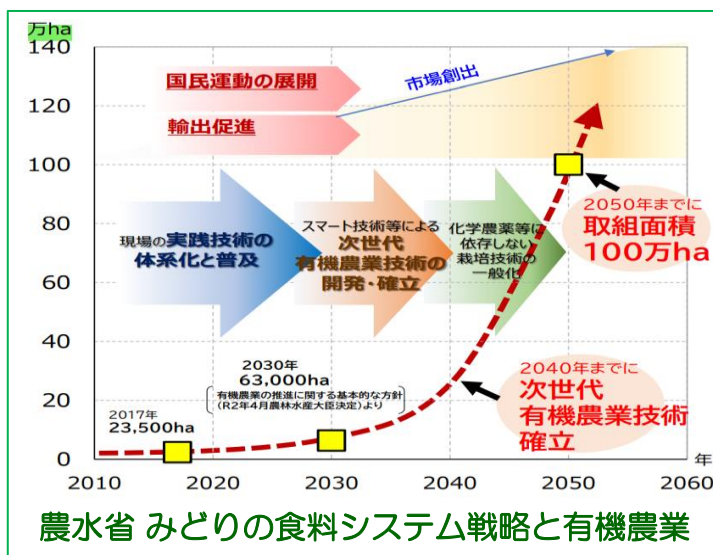
農林水産省が21年5月に策定した「みどりの食料システム戦略」は、地球温暖化対策と食料安全保障の観点から、農業や化学肥料に頼る戦後の農業を、国内の地域循環にもとづく持続可能な農業に大きく転換しようというものです。高橋はその転換を評価する立場から、神戸市に受け止めに聞きました。

神戸市「有機農業は神戸市としても必要な戦略」

神戸市は「短期的に取り組むものや中長期的に取り組むもの、国の支援や県との連携など必要に応じて進める」と答弁。高橋は具体的に「コウノトリが生活できる田んぼ作り」や「有機農業生産者を面的に集約するオーガニックビレッジ」をと求めましたが、神戸市としては、検討はこれからとのことでした。

神戸市が意欲的な生産者と理解ある消費者をつなぐことを期待

神戸市が把握している有機農業の農地は19.1ヘクタールで農地全体のわずか0.4%です。(全国平均も0.5%) 有機農業をはじめ、環境に配慮した農業を大きく増やすためには、神戸市が意欲的な生産者と理解ある消費者をつなぐネットワークを率先して作る必要があります。例えば家庭の生ごみをたい肥化する「家庭用コンポスト」を市街地で集めて生産者に提供し、農産物を市街地で優先的に購入するシステム(山形県長井市で実践)を神戸でも作りましょう。



建築住宅局 市営住宅解体工事 なぜ? アスベスト調査で5億円の工事費増



中央区の市営下山手住宅4号棟(写真)の解体工事は、アスベスト除去工事の規模が増え、当初**2億7千万**の工事費が**7億7千万**に膨れ上がりました。

実は、アスベスト含有の可能性が高い電気室の調査漏れという初步的ミスが発覚し、謝罪した神戸市は、精度の高い国際基準の方法で調査をやり直しました。すると今度は、日本固有の方法で「アスベスト有」だったところが、国際基準の方法で「無」という結果が、たくさん出てしまったのです。

本来は、調査方法の是非も含めてきちんと検証すべきなのに神戸市は「1回でもアスベスト有の結果が出たところはすべてアスベスト除去工事を行う」と発表したため、工事費が膨れ上がったのです。

アスベスト調査を検証し税金の無駄使いをやめさせよう

高橋は総括質疑で「21年11月に建築住宅局が、建築物石綿含有建材調査者協会(以下、協会と略す)に調査結果の検証を求めて、協会も検証すると回答したのになぜ検証しなかったのか?」と追及しました。副市長は「ほかの関係機関に聞いたが、一度アスベスト『あり』の結果が出たところを『なし』とすることはできない、と言われたので検証するのをやめた」と回答。「協会は食い違いの原因について考えられる理由も説明している。副市長は無駄な工事が明らかになることを恐れて、真実を隠しているのでは?」と指摘しました。

今後神戸市では10年間で、284棟の市営住宅を改修・解体しようとしています。工事費を左右する「アスベスト調査」について信頼がなければ、市民理解は得られません。

こども家庭局 こども家庭センターで子どもの権利擁護が前進



一時保護所での体験を語る女子中学生

高橋は、1年前に「こども家庭センター一時保護所」の生活ルールが、子どもの人権無視だと告発しました。そして協議を重ねることで、改善の兆しが見えてきました。その一例が「こどもの意見表明制度」です。入所した子どもさんが疑問を感じたら弁護士を通じて意見を述べるができる制度です。

高橋は、さらにその弁護士がこども家庭局に意見できる制度を求めましたが、まだ実現できていません。しかし「子どもが弁護士の法律援助制度を利用すれば無料でその弁護士の力を借りられる」とのことでした。現在国は、こども家庭センターの一時保護所そのものを家庭裁判所が審査する「司法審査」を導入しようとしています。こども家庭センターとして積極的に活かすよう求めたところ「判断の適正性や手続きの透明性が求められるので、子どもの権利擁護に努力したい」と答えました。

まつだたえこさん…拒食症(摂食障害)と向き合いながら社会問題を発信する漫画家



2022.3.20.5:30AM

第2回 高橋ひでのり サポーター集会のお知らせ

【日時】
2022年4月16日(土)
14時~16時

【場所】
レバンテ2番館
垂水区文化センター
多目的ホール

参加費無料です。
お誘い合わせのうえ
ぜひご参加ください。